



わくわく
を
走れ!

Public relations
OZU TOWN

広報おおづ 2026 3

発行・編集 ■大津町・総合政策課
〒869-1292 熊本市東区津島大字大津1233番地
TEL.096(293)3118 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>
印刷 ■ホーテ印刷株式会社
※広報おおづは環境に配慮して再生紙と植物インクを使用しています。

UD
FONT
易やすぐ読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報
おおづ

3
March 2026

第27回スポーツの森・大津ジョギングフェスティバル P8



作品をおおづ図書館で
見ることができます
3月5日(木)~20(金)
「羊毛の手しごと展
—羊からのおくりもの—
おおづ図書館展示コーナー

◀くまもとハンドメイド大賞で
受賞した作品。
本物そっくりながらも、温か
さを感じる。

clozu-up
Ozu-jin
クローズアップ 大津人



「わくわく」を
道しるべに。

いちはら かよこ
市原 佳代子さん(大津町)

衣料や手芸、木工家具など手工芸の出来栄を競う「くまもとハンドメイド大賞」で、熊本の特産品を表現した羊毛フェルト作品がグランプリを受賞。アトリエ「ウントネ」を主宰し、好奇心を原動力に創作を楽しむ市原さんの活動と思いにクローズアップした。

吹田に、穏やかな時間が流れる場所がある。今年で12周年を迎えるアトリエ「ウントネ」。扉を開けると、色鮮やかな裂き織りや、温かみのある羊毛フェルト作品が迎えてくれる。主宰の市原さんは、自身の手仕事を「作品づくり」と気負わず、「ただだ、楽しいから」と微笑む。

屋号の「ウントネ」には、市原さんの家族への愛情が刻まれている。きっかけは約40年前。結婚して親元を離れた、2人目の子供が生まれた頃のこと。「遠く離れた家族や友人に近況を伝えたい」と手書きの家族新聞を作ることになった。当時2歳だった娘に「新聞の名前何にする?」と尋ねると、返ってきたのは「うんとね」という可愛らしい相槌のような言葉だった。その名は今、家族だけでなく、アトリエに集う人々を温かく包み込んでいる。

市原さんの活動は、機織りから始まり、ダーニング(修繕刺繍)、羊毛フェルトへと、好奇心の赴くままに広がってきた。「顔がニクニクするほど楽しい」と語るその横顔はきらきらしている。「気が向かならぬとはなるべくないから」。『わくわく』や『おうち』を道しるべにする上決めている。「少しでも気が向いたら、動いてみてほしい。そこから何かにつながるかもしれない」。そう語る市原さんの姿は、私たちに「自分らしさを楽しむこと」の大切さを教えてくれている。

こゝの声

先日、宮崎県の三股町と小林市に先進地研修に行きました。宮崎には10年以上前に4年ほど住んでいました。久しぶりの宮崎は太陽の光も、人も温かく感じました。そして広報の担当者の皆さんも例に漏れず温かく(むしろ熱く)迎えてくれました。技術はもちろんのこと、気持ちを含めることが一番大切なんだな。と改めて感じ、これまでの自分の仕事の進め方を見つめ直すきっかけにもなりました。

健康診断で初めて要精密検査の結果が出ました。予想外の項目にひっかかり動揺しています。近々病院に行きます。皆さんもお体を大事に。(M.S)



広報が読める
スマホアプリ
マチイロ